



今年の最初の学校通信に相田みつを氏の詩を掲載します。相田みつを美術館では、全国約2,000人の小中高生を対象に「ぼく・わたしの好きな相田みつをの詩」というアンケートを行ったそうです。すると、小学生の1位は上記の「しあわせは いっつもじぶんのところがきめる」でした。5年前の東日本大震災の復興のために多くの若者がボランティアとして参加していました。物質的な幸せよりも精神的な幸せを望んでいるのだなと改めて考えさせられました。

給食週間始まる

1月25日(月)～29日(金)は給食週間です。学校では「給食を作ってくれる調理員さんに感謝したり給食の大切さを考えたりする」という目的で学校給食の起源を知る等の取り組みをしています。給食週間は以下のような経緯で設けられました。

<給食週間の始まり>

学校給食は今から、126年前、明治22年(1889年)、山形県鶴岡町(現鶴岡市)の忠愛小学校で始まりました。

家が貧しくて、お弁当を持ってこられない子供がたくさんいたので、この小学校を建てたお坊さんが、おにぎり・焼き魚・漬け物といった昼食を出していました。みんな、大喜びで食べたそうです。忠愛小学校には、「給食が始まった学校です。」という記念碑が建てられています。

それからは、給食がだんだん日本中に広がっていきました。昭和20年に戦争は終わりましたが、その頃の小学6年生の子どもの体は、今の4年生の子どもの体と同じくらいでした。みんな食料不足で十分に食べ物を食べていなかったからです。そこで、今から69年前の昭和21年12月24日に、東京・神奈川・千葉で学校給食が開始されました。現在、12月24日は給食がありませんから、1ヶ月後の1月24日から30日までを学校給食週間とし、「給食のことを考えてみよう」としているのです。

地震による避難訓練実施

1月15日(金)、地震に対する避難訓練を行いました。地震の訓練は机の下に避難する第一次避難と体育館や運動場に避難する第二次避難の訓練があります。今回は第一次避難のみを行い、その後、校長によるTV放送とDVDの視聴で地震の際の避難の仕方について学びました。児童には机の下に潜るときは頭をガラス窓と反対の方向を向ける、勝手に校外に出て行かないなどの徹底を図りました。阪神淡路大震災や東北大震災は児童にとっては過去のものになりつつありますが、地震の怖さや過去の体験を風化させず、地震の対応を考えさせていきたいです。

校区の危険箇所点検

昨年末、校区の危険箇所の点検を警察、小倉北区役所、学校職員(校長・教頭)・保護者・地域の生活安全パトロール隊の方と一緒にしました。まず、市民センターで地図や写真をもとに情報の交換をした後、実際に現地に出向き、危険箇所の確認をしました。危険箇所の中にはガードレールがなかったり、四つ角が歩行者からも車からも見にくかったりする場所がありました。危険な場所は警察・区役所に改善を申し入れ、早急に対応してもらうようにしました。



<通学路合同点検会議の様子>

授業参観と人権講演会

1月16日(土)、人権に関する授業参観と人権講演会を行いました。人権講演会では「いのちをいただく」という絵本の作者で助産師の内田美智子先生が講演をされました。内田先生は、ご自分が書いた絵本の中にある「命をいただく」ということと、仕事の関係で出会う「命を授かる」ということを絡めて、命の大切さを子ども達に話してくださいました。とても、分かりやすい内容で話を聞いた6年生からは「命の大切さがわかりました。自分を命がけで生んでくれたお母さんを大切にしたいです」という感想が出ました。なお、この講演の様子は下記の番組で放送されます。

1月20日(水) ジェイコム11CH「デイリーニュース」
(開始時刻:11時、16時、19時、22時、24時30分)